

## 平成 26 年度第 2 回日本生理学会教育委員会議事録（委員内詳細版）

日時 平成26年7月20日 10時00分～12時00分  
会場 大阪市北区芝田2-8-11、共栄ビル 2F 会議室  
出席者 石松 秀（西九州大）、奥村 敏（鶴見大）、奥村 哲（静岡理工科大）、久野 みゆき（大阪市大）、鯉淵 典之（群馬大）、小山 なつ（滋賀医大）、椎橋 実智男（埼玉医大）、渋谷 まさと（女子栄養短大）、鈴木 敦子（健康科学大）、中島 昭（藤田保健衛生大）、深田 優子（生理研）、南沢 享（慈恵会医大）  
（以上50音順）  
欠席者 松田 哲也（玉川大）、山下 俊一（女子栄養大（広報委リエゾン））  
議長 鯉淵 典之 委員長  
書記 奥村 哲  
オブザーバー 渡邊 マキノ（順天堂大（認定委からリエゾンとして出席））

## 【報告事項】

1. 新委員について（鯉淵委員長 資料あり）  
資料に基づき、新委員を含む平成26年度委員について報告があった。新たに小山委員、深田委員（前年度末から）、南沢委員、渋谷委員を迎えた。資料については、委員の所属等について一部訂正の上、承認された。
2. 前回議事録承認（奥村哲委員、資料あり）  
平成 26 年 3 月 15 日開催の平成 25 年第 4 回教育委員会議事録が承認された。
3. 教育プログラムアンケートについて（鯉淵委員長、資料あり）  
鯉淵委員長より、第91回生理学会大会（鹿児島）時に開催された教育プログラムのアンケート集計結果について報告があった。回答者の97%以上が生理学会員であり、8割以上が、「生理学エデュケーター」制度の開始を知っていた。また、「自分の講義の参考になった」「内容を会員にHPに公開することに意義がある」との回答が多かった。また所属機関は「大学」である人が123名中、100人と多く、職位については「助教」が合計30名と多かった。講義回数について看護保健系の先生方の講義回数が多かった。その他、毎回1/3は初めての参加であること、コンテンツ共有化、教育方法開発についての要望が強いこと、アンケートの結果で見るとポスドクの参加は少なかったことなどが明らかになった。
4. 生物科学学会連合教科書問題検討委員会について（渋谷委員、資料あり）  
生理学会教育委員会からの意見をまとめた上で生科連に提出したことが報告された。今後、生物教育学会が各学会の意見を集約し、生物教育用語集（東大出版）の改訂に反映させる。これは、学習指導要領における用語の統一に反映される計画である。
5. 生科連ポスドク問題検討委員会について（鯉淵委員長、資料あり）

資料に基づき、これまでの生科連における議論について報告された。現状、大型予算等によって雇用されているポスドクは18000人にのぼるが、ミッションとの関係や、教育実績がつかないなどの問題があり、有効なキャリアとして活かしきれていないなどの問題が指摘されている。生理学会としては、鯉淵教育委員会委員長と若手幹事であり最近までポスドクであった篠田陽理事（東京理科大）を検討委員として推薦し、学会の意向を反映させていくこととした。教育委員会としては、ポスドクの教育プログラムの作成という点で関与を深め、篠田理事には主にポスドクサイドからの意見を集約していただくことになった。

6. アウトリーチタスクフォースについて（鈴木委員）

鈴木委員より学会として、会員が行っているアウトリーチ活動の登録状況の報告があった。出前講義登録については、5月末段階で112題、50名以上の情報が学会に登録されている。今後若手のプロモーション等に役にも立つように、日生誌においてアウトリーチ活動の紹介記事などを検討する。またさらに会員から情報を集め、登録形式を検討した上で、新しくなるホームページ上で広報していく方針が説明された。また、若手会員がアウトリーチに関わりやすいようにPIに働きかけを行っていく必要性があることが議論された

7. 日本生理学会雑誌「Education」について（久野委員、資料あり）

教育のページの2015年1月号までの内容・執筆者は概ね決まっていることが報告された。今後、研究指向学生のコンソーシアムの事例について鯉淵委員長より適切な先生に執筆を依頼することが確認された。また心理分野や研究者倫理の問題についての記事を検討していく。

8. 認定エデュケーター委員会について（中島委員、資料あり）

中島委員（認定エデュケーター委員会委員長）より、認定エデュケーターの申請状況および、FAQの内容、今後の認定に関する日程等についての報告があった。9月に認定委員会を開催し申請書類の不備についての確認を行うこと、来年の1月の認定証発行にむけて作業を進めることが確認された。また10月5日の理事長副理事長会議に概数の報告を行う、11月2日の理事会に認定者リスト提出するなどの予定が確認された。

9. 一步一步学ぶ生命科学について（渋谷委員、資料あり）

渋谷委員より、資料に基づいて、システムの構築やMoodleへの対応状況等について説明があった。今後、夏にMoodle 2.7へアップデートし、秋にはβテストを開始する予定が説明された。また、内容については、今後レベル分けについてさらに検討すると共に、FAOPSに向けて、英語化を検討していくことが確認された。

10. その他（鯉淵委員長（資料なし））

医学教育学会のプレコンgressで模擬講義を生理学会のモデル講義に倣った方式で行い、筑波大学の渋谷先生が免疫について、東北大学の柳原先生がアスピリンの動態についてモデル講義

および実習を

行った。今後、薬理学会、解剖学会も同様の試み続けるそうである。また、学生の国際生理学クイズへの参加を引き続き促すことが確認された。

### 【討議事項】

#### 1. 神戸大会での教育プログラムについて（石松委員、資料あり）

平成26年度神戸大会（解剖学会と合同開催）の教育プログラムの概要について石松委員長より説明、提案があり、全て討議の上、可決された

1. 神戸大会までは2日目、3日目の午前午後にこれまでと同じ方式で教育プログラムを開催すること。解剖学会、生理学会から各6名ずつの演者が決まった。
2. モデル講義と教育講演の予定講演者と演題、プログラム案が示され決定した。
3. 座長については、生理学会教育委員の石松委員、鯉淵委員、奥村哲委員、椎橋委員に加えて、解剖学会から八木沼先生が担当されることが決定した。
4. モデル講義の講評の先生については、松尾理先生（近大名誉教授）に依頼することになった。
5. エducator制度の説明を中島委員が、初日の冒頭に行うことにした。
6. モデル講義の学生席については例年どおり用意をする。渋谷委員から兵庫医大の越久先生に学生の動員について依頼することになった。

#### 2. エducator申請に伴う、評議員の推薦について（鈴木委員、資料あり（回収））

エducator申請時に、近隣に評議委員がいない場合の対応の取り扱いについて確認し承認された。基本的には、教育委員の先生に判断を依頼することが確認された。

#### 3. 生理学MCQ問題集およびクリアブックの改訂について（鯉淵委員長、資料あり）

資料に基づいて、改訂の基本方針について説明され決定した。大枠は以下のとおり。

##### 生理学MCQの改訂について

- ・A4 > B5版 1色刷り 624>>400問程度にする。
- ・問題の精選 CBTの流れに従って、想起型より解釈の問題を増やす。
- ・できるだけ値段を下げる。印税は 生理学会本体の収入にする。
- ・仮書名 : 日本生理学会教育学会編 生理学問題集 CBT準拠
- ・ワーキンググループの主なミッション

問題の取捨選択 > 1月に 問題の作成依頼

##### ワーキンググループ

深田委員、久野委員、鯉淵委員長、椎橋委員、中島委員、奥村敏委員、南沢委員（とりまとめ）、

クリアブック（解剖生理）の方も並行して進める。

##### ワーキンググループ（敬称略）

小山委員、石松委員、渋谷委員、鈴木委員、渡邊マキノ先生（とりまとめ）、

奥村哲委員、これに加えて渡邊先生が順天堂大の先生（看護、解剖）を推薦

4. 教育プログラムの今後について（鯉淵委員長、資料なし）

鯉淵委員長より、主に将来計画委員会からの要望として以下の内容が説明された。今後、継続審議の課題としていくことを決定した。

1. 神戸以降の大会について、教育プログラムをプレ開催とすることの是非について今後検討することになった。
2. 英語での発表、講義についてのシンポジウムの開催を検討することになった（例 Carol 先生）。

5. 生理学会HP教育関連ページについて（鯉淵委員長（山下委員の代理）、資料あり）

会員向けサイトに（エドゥケーター制度、モデル講義供覧、教育関連コンテンツの紹介）を、一般向けサイトには将来計画委員会とすりあわせた上で、アウトリーチや一歩一歩の内容を中心に中高生や中高の教員を意識した内容を載せることを検討する。

6. 今後の活動について（鯉淵委員長、資料なし）

既に委員会で検討されたとおり、カエル捕りの名人の大内一夫氏の永年の生理学教育への貢献に対して学会感謝状を贈るとともにプレスリリースも行うよう理事会に提案することが確認された。